

番号	2		事業名	県営ため池等整備事業		市町村名	伊那市		路河川名	-		箇所名(ふりがな)	富士塚(ふじづか)		
事業計画時の課題・背景及び事業経緯	<p>○富士塚ため池は、貯水量が42,000m³あり、下流の農地33.5haの水田を潤す重要な農業用施設である。築造は、江戸時代の嘉永4年(1851年)で、築造からすでに165年が経過しており、老朽化による堤体の浸食変形や、漏水などから決壊の危険性が危惧される状況であった。決壊した場合には、下流の農地だけでなく、人家にも被害が及ぶことが想定され、早急な改修が必要となっていた。加えて、ため池の維持管理面においても毎年の補修作業や漏水見廻りの回数が増えるなど、費用や労力が増加しており、管理者の負担軽減のための対応も必要となっていた。</p> <p>○事業開始前には受益者137名に改修概要を説明し、事業費の1割を負担してもらうことにも同意を得て事業実施することとなった。</p>														
	<p>○事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化(A:環境がよくなった B:大きな影響なし C:影響が大きい) 評価</p> <p>○堤体を改修し、維持管理が容易になったことで、安心して散歩できるようになり、地域の憩いの広場となった。</p> <p>○堤体に植えられている桜を多く残し、改修によりきれいになったことで、一層桜の名所となった。</p>														
事業目的	<p>○本ため池改修は、伊那市の地域防災計画にも位置付けられており、決壊等による災害を未然に防止することを目的としている。</p> <p>○堤体法尻からの漏水が著しい上、堤体断面が浸食により変形していたが、堤体には樹齢150年を超える松や桜が数多く植えられており、これらをできるだけ残すように堤体の改変を極力小さくするため遮水シートによる改修を行った。堤体以外については、底樋の径を大きくして緊急放流施設としての機能を有する構造とした。また、護岸が土羽であるため、浸食防止の波除護岸を設置した。</p> <p>ため池改修により、漏水防止による用水の安定供給、堤体の安定や付帯施設の整備による災害の防止、それらに伴う維持管理労力の軽減などを行い、地域農業の安定生産の向上と農村環境の保全を図ることとした。</p>														
	<p>施設の維持管理状況(A:地域の人たちの参加あり B:適切 C:やや不十分 D:不適切) 評価</p> <p>○以前は、背丈ほどの草が伸びていて、歩くこともできないくらいで住民の関心が低かったが、ため池を改修したことで環境が良くなり、住民の関心が高まった。改修する直前から多面的機能支払事業による活動も始まり、非農家の方も10人程度草刈りに参加してくれるようになった。</p> <p>○定期的な点検、管理、見廻りは美篤土地改良区が中心となり行っている。</p> <p>○周辺環境を整備しようという機運が高くなり、維持管理(草刈り)回数が2回から3回(5月、6月、10月)に増えた。</p>														
事業概要	<p>地域住民等の評価(A:評価が高い B:中程度の評価 C:評価が低い) 評価</p> <p>○受益農地にとって農業用水を安定確保が一番重要なことであり、受益農家からの評価は非常に高い。</p> <p>○環境がよくなったこともあり、周辺住民からは否定的な意見が全く聞こえてこない。</p> <p>○改修したことで、散歩する人も増えた。春先には、インターネットで情報を得て六道堤の桜を見に来る人や、写真の撮影に訪れる人も増えている。ため池の改修前以上に桜の名所となっており、地域住民からの評判は良い。</p>														
	当初工期	H19~H21		費用対効果(当初時)	4.9		事業費(千円)		財源内訳(千円)						
	最終工期	H19~H22		費用対効果(評価時)	4.9		上段:当初/下段:最終		国庫	その他	県債	一般財源			
	当初計画内容(主な工種)	ため池改修工 1箇所 (取水施設、洪水吐、堤体工、波除護岸工)			150,000	75,000	52,500	20,000	2,500						
最終事業実績(主な工種)	ため池改修工 1箇所 (取水施設、洪水吐、堤体工、波除護岸工)			150,800	75,400	52,780	20,000	2,620							
事業期間の延長、短縮理由と分析	<p>○事業実施において、地元住民に十分説明し、計画的に進めている。</p> <p>○波除護岸の施工方法について地元と協議した結果、桜の幼木のうち一部については落葉後に移植した上で施工することとなった。そのため工事実施期間が限られ、年間の施工量が当初計画より減となったため、工期を1年延長した。なお、延長となった期間は最少年数であり、事業効果としての影響は回避されている。</p>														
事業費(予算)の増加、縮減理由と分析	<p>○物価上昇分による事業費増のみであり、当初計画どおり事業執行している。</p>														
①事業効果の発現状況	<p>事業効果の発現状況(A:目的を超えた達成 B:達成した C:概ね達成 D:達成したとはいえない) 評価</p>														
	直接的効果(定量的・定性的)	<p>○堤体において、遮水シートの施工や断面変形に対する改修(盛土)、及び波除護岸の実施により、ため池の安全性が確保され、いつ決壊するかという不安がなくなった。</p> <p>○漏水を防止したことで、農業用水が安定的に供給されるようになった。</p> <p>○洪水吐基礎部の空洞を改修し、底樋(取水施設)の断面を大きくしたことで、緊急時に放流可能な施設となった。</p> <p>○漏水の解消及び施設の安全性の向上により、漏水確認のために行っていた週2回以上の見廻りが不要となり、労力が軽減された。</p> <p>○堤体の浸食が改善されたことで、水際まで草刈りすることができ、維持管理が容易になった。</p>												A	
	間接的効果(定量的・定性的)	<p>○以前は草も伸びていて、住民の関心も低かったが、改修したことで草刈り等の維持管理も容易となり、周辺環境もきれいになった。そのため、当初の目的以上に住民の関心も高まり、維持管理に非農家も参加するようになった。</p> <p>○堤体に植えられていた桜や松を極力残すように配慮したため、現在も桜の名所の一つとして地域の観光資源となっている。</p> <p>○用水の安定確保により代かき期などの水管理が容易となった。</p>													
	今後の取り組み及び同種事業への活用と課題	<p>○農業用ため池の改修は、農業用水の安定確保はもとより、地震防災上の観点からも事業に対する関係者の関心並びに評価が非常に高い。今後は適切な維持管理を行い、持続的な農業を推進する上での重要な施設として保全を図っていく。</p> <p>○農業用施設であると同時に、生活環境として地域住民の憩いの場となっている。今後の事業執行に当たっては、自然との調和に十分配慮するとともに、水辺には危険があることを十分認識し、適切に安全施設を設置するなど、状況に応じた計画とする必要がある。</p> <p>○維持管理する管理者、農家の方も高齢者が多くなり、ペットボトルやビニール、刈った草などのゴミの片付けなどの維持管理が容易な施設となるように検討していく必要がある。</p>													
部意見	<p>ため池改修による用水の安定供給、災害防止、維持管理労力の軽減といった事業目的が達成されている。また、生活環境の一部として地域住民への憩いの場の提供につながっており、地域からの評価もよいことから、事業効果は十分に発揮されている。</p>														
行政改革課意見	<p>農業用水の安定供給と災害の未然防止が図られ、事業の目的を達成している。</p>														